



言語聴覚士



話す、聞く、食べる、飲む…
日常生活を守るために



患者さんが回復されていく姿を
間近に見られることが
やりがいにつながっています



近藤 日向子さん

相澤病院 勤務
保健医療学部
言語聴覚学科 卒業

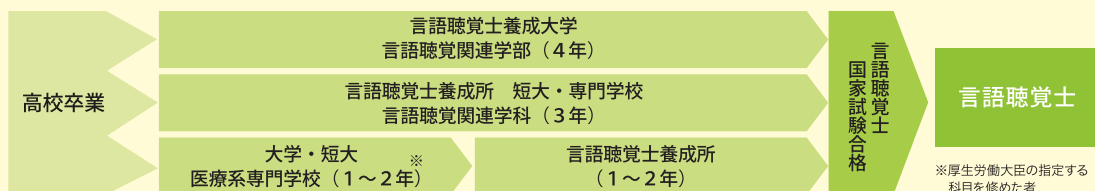
「話す・聞く・食べる（飲み込む）」といった機能に障害を持つ方々が社会生活を送れるように、訓練、指導、助言などの援助をしています。障害の原因を見極め、回復のお手伝いをしながら、コミュニケーション方法や安全な食事方法の提案をするのが仕事の中心です。徐々に回復されていく姿を間近で見ることができるのでやりがいにつながります。リハビリによって患者さんが食事をしたりご家族と会話をしたりするのを見たときに、この仕事に就いてよかったと思います。

どうすればなれる？

● 言語聴覚士国家試験に合格しなければなりません。

受験資格を得るには…

文部科学大臣、または厚生労働大臣指定の学校で3年以上学び、必要な知識・技能を修得する大学、短大、専門学校で2年(1年)以上修業し厚生労働大臣の指定する科目を修めた者で、文部科学大臣、または厚生労働大臣の指定する養成所で1年(2年)以上学び、必要な知識・技能を修得する方法があります。



※厚生労働大臣の指定する科目を修めた者

どんな仕事？

人間の尊厳、「ことば」の回復を図る

①ことば ②聞こえ ③声や発音 ④嚥下(食物の飲み込み)の障害は、生まれつきのものから病気やけがによるものまで原因はさまざまで、小児から高齢者までが対象です。脳卒中による高次脳機能障害では、失語症など言語機能の回復のみならず、認知症など、その人の生き方や尊厳を守るためのリハビリテーションの有効性も認められています。

どこで働く？

医療福祉分野のほか、ことばの教室などの教育分野や、企業などにも

病院・リハビリテーションセンター

介護保険施設 保健・福祉施設

教育機関(特別支援学校、ことばの教室)

企業(補聴器・福祉機器メーカー、NPO法人)

ボイスセンター

など

仕事の展開と将来の展望

超高齢社会でニーズが高まる専門職

言語聴覚士は、日本では1997年に法制化された国家資格です。超高齢社会となり、老齢期の脳卒中などの後遺症による失語症や嚥下(えんげ)障害、認知症が増えており、言語聴覚療法を必要とする人は全国で650万人以上と言われるなか、有資格者は現在約30,000人。今後、社会的ニーズが高まり、医療のみならず、教育や福祉の分野にも活動の場が広がることが予想されています。